

# 栽培方法や 研修方法を学ぶ

大豆・じゅうねん・あずき栽培者研修会



現地研修会の様子

大豆・じゅうねん・あずき栽培者研修会は七月二十七日、村公民館などで行われました。

研修会には、今年度大豆、じゅうねん、あずきを栽培しているお年寄りなど約百人が参加。矢吹友一さん（真坂）の大豆栽培ほ場で現地研修を行った後、村公民館に会場を移して研修を行いました。公民館では、大楽村長の講話に続いて、福島県南農林事務所農業普及部の井出主査による大豆・あずきの栽培技術指導と山形村農林課長からじゅうねんの栽培技術について説明が行われ、参加者は

熱心に耳を傾けていました。その後、村住民福祉課の村山保健師による健康体操や村食生活改善推進員ひまわりの会、落合里づくり協議会・落合ひまわり会、村給食センターによる手作り料理でふれあい昼食会が開かれました。昼食会のメニューは、古殿町出身で東京「分とく山」総料理長の野崎洋光さん考案の地元食材を使った料理が出されました。

また、研修会終了後、歌手の根本美希さんによる「民謡と演歌の長寿を祝う花のステージ」が行われ、楽しいひとときを過ごしました。



上…村食生活改善推進員ひまわりの会の皆さん/下…落合里づくり協議会・落合ひまわり会の皆さんによる手作り料理で昼食会が開かれました。



上…健康づくり体操を行う参加者/下…根本美希さんによるお楽しみ演芸会

# 鮫川の水環境を学ぶ

鮫川にカジカを呼び戻す会（斎須寛一代表）は七月三十日と八月三日に活動を行いました。

七月三十日は源流編として、鮫川水系の源流の地を探すことを目的に、小学生など約四十人が参加しました。戸草地内の山の中を一步步ずつ進み、最初の水にたどりつき、「鮫川源流の地」の看板を設置しました。

また八月三日には、役場前を流れる河川（鮫川）で活動を行いました。



上…鮫川の源流の地で/下…カジカを放流することもたち

学ぼうと、小学生とその保護者や会員約五十人が参加しました。

はじめに水生昆虫の調査を行いました。川の兩岸や流れがゆるやかな場所などを押し棒で網に追い込み、すくい上げて調べました。網の中には、カジカの稚魚が確認でき、その他シマドジョウやカエル、トンボのヤゴなどが次々と入り、水生昆虫を観察しました。

また、簡易検査による水質調査も行われ、きれいな河川であることを確認しました。最後にカジカの成魚六十匹を故郷の川に棲みつくことを願って放流しました。

県南地域の医療従事者はがんばっています。  
一人でも多くの人を救いたい。それが願いです。

9月9日は「救急の日」

人口10万人あたりの医師数	
全国平均	217.5人
福島県全体	183.5人
県南地域	137.1人

それでも、救急患者の受け入れは全国水準を確保しています。

救いたい命を救うために  
地域の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

県南地域救急医療対策ワーキンググループ  
白河消防本部・県南保健福祉事務所・鮫川村